

# 平成23年度 病害虫発生予察情報

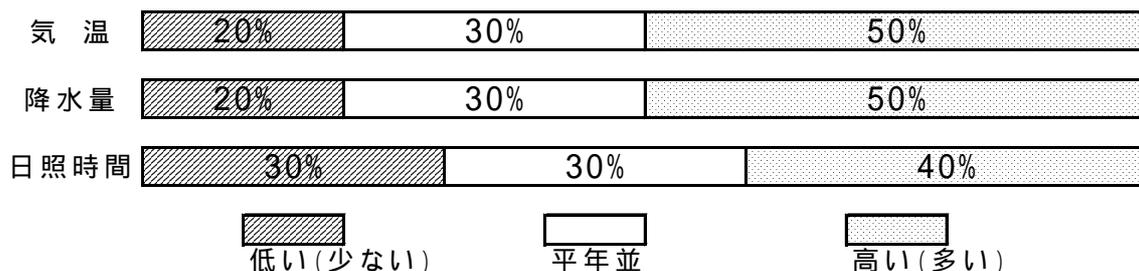
## 発生予報第8号(9月)

平成23年9月2日  
島根県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	平年並～やや少ない
		紋枯病	平年並～やや少ない
		白葉枯病	平年並～やや多い
		ツマグロヨコバイ	やや多い
		セジロウンカ	やや少ない
		トビイロウンカ	少ない
		コブノメイガ	少ない
		斑点米カメムシ類	やや多い
		ハスモンヨトウ	やや少ない
		黒斑病	少ない
果樹	ダイズ	シンクイムシ類	平年並
		ハダニ類	平年並
		カメムシ類	やや少ない
		カメムシ類	やや少ない
野菜	アブラナ科野菜	うどんこ病	平年並～やや多い
		カキミガ	平年並
		カメムシ類	やや少ない
		アブラムシ類	平年並
		コナガ	少ない
		アオムシ	平年並
		ハスモンヨトウ	やや少ない

中国地方1か月予報(9月3日～10月2日・広島地方气象台9月2日発表)  
< 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) >



#### A. 普通作物果樹

##### 1) イネ

##### (1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並～やや少ない

予報の根拠

中山間地域では発病程度のやや高い圃場が散見されるが、県内全域の発生状況は9月1日現在、発生圃場率が10.4%(平年23.6%)、発病穂率は0.7%(平年2.0%)と平年に比べてやや少ない。

向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

平年並～やや少ない

予報の根拠

全般の発生量は平年に比べてやや少ない。

向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容

発生地方

常習発生地

発生量

平年並～やや多い

予報の根拠

全般の発生量はほぼ平年並みである。

向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(4) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

やや多い

予報の根拠

8月下旬の巡回調査では、寄生虫数65.0頭/50株(平年41.7頭)、発生圃場率93.8%(平年73.3%)で発生量は平年に比べてやや多い。

予察灯への飛来量は平年に比べて少ない。

向こう1か月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

(5) セジロウンカ

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

8月下旬の巡回調査では、寄生虫数1.4頭/50株(平年14.4頭)、発生圃場率43.8%(平年63.4%)で発生量は平年に比べてやや少ない。

予察灯への飛来量は平年に比べて少ない。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) トビイロウンカ

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

少ない

予報の根拠

8月下旬の巡回調査では、寄生虫数0頭/50株(平年2.9頭)、発生圃場率0%(平年26.4%)で発生量は平年に比べて少ない。

予察灯への飛来量は平年に比べて少ない。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(7) コブノメイガ

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

少ない

予報の根拠

8月下旬の巡回調査では、寄生虫数0頭/50株(平年0.2頭)、被害株率0%(平年2.4%)で発生量は平年に比べて少ない。

予察灯への飛来量は平年に比べて少ない。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(8) 斑点米カメムシ類

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

やや多い

予報の根拠

8月下旬の巡回調査では、捕獲頭数4.8頭/20回振り(平年6.4頭)、発生圃場率50.0%(平年72.3%)で発生量は平年並みである。

予察灯でのアカスジカスミカメの誘引数はやや多い。

向こう1か月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容  
発生地方 県下全域  
発生量 やや少ない

予報の根拠

フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は、県東部で  
平年比39.3%、県西部で62.6%とやや少ない。  
現在の巡回調査での本種幼虫による1a当たりの白変か所数は0.4か所(平年  
0.8か所)でやや少ない。  
向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容  
発生地方 ナシ(二十世紀)栽培地帯  
発生量 やや少ない~少ない

予報の根拠

8月30日の巡回調査では、発病葉率は10.6%(平年19.0%)であり、平年と比  
べて少ない。  
向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) シンクイムシ類

予報内容  
発生地方 ナシ栽培地帯  
発生時期 平年並  
発生量 平年並

予報の根拠

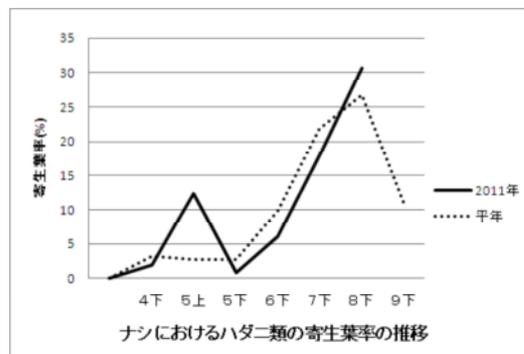
予察圃場(安来市・出雲市)のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雄  
成虫の誘殺盛期、誘殺数とも平年並みである。  
向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容  
発生地方 ナシ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

巡回調査では、寄生葉率は30.5%/50葉  
(平年26.7%/50葉)で平年並みである。  
向こう1か月の気象は発生を特に助長  
する要因とはならない。



(4) カメムシ類

予報内容  
発生地方 ナシ栽培地帯  
発生量 やや少ない

予報の根拠

予察圃場(出雲市)の8月1日から6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数  
は194頭(平年734.0頭)と少ない。  
チャバネアオカメムシ集合フェロモントラップでの8月1日から5半旬までの誘  
殺数は16頭(平年821.6頭)と少ない。  
向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容  
発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 平年並~やや多い

予報の根拠

8月29日の巡回調査では、発病葉率は11.6%(平年11.8%)であり、平年並み  
である。  
向こう1か月の気象は、本病の発生にやや助長的である。

(2) カキミガ (第2世代)

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 平年並

予報の根拠

第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みである。  
向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 やや少ない

予報の根拠

予察圃場(出雲市)の8月1日から6半旬までの予察灯でのカメムシ類の誘殺数は194頭(平年734.0頭)と少ない。  
チャバネアオカメムシ集合フェロモントラップでの8月1日から5半旬までの誘殺数は16頭(平年821.6頭)と少ない。  
8月下旬の巡回調査ではカメムシの被害果率は0.4%(平年10.6%)と少ない。  
向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 平年並

予報の根拠

8月の黄色水盤への有翅虫の飛来量は平年並みである。  
8月末現在、巡回調査による寄生株率は7.0%でほぼ平年並みである。  
向こう1か月の気象は、本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) コナガ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 少ない

予報の根拠

8月末現在、巡回調査による寄生株率は0%で少ない。  
向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) アオムシ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 平年並

予報の根拠

8月末現在、巡回調査による寄生株率は7.0%でほぼ平年並みである。  
向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県下全域  
発生量 やや少ない

予報の根拠

フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の誘殺累積数は、県東部で平年比39.3%、県西部で62.6%とやや少ない。  
8月末現在の巡回調査での寄生株率は1.0%(平年4.0%)でやや少ない。  
向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

**島根県病害虫防除所**

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaiyuu/>